

っぺんのかけらが目のなかに入ってしまったことがあるんです。このあたりは、星降り峠と言って、星がそうやって降ってくる場所なのです。そうしたもののひとつが、胸の辺り、ちょうどいまあなたがいる辺りに落ちてくると、こうやってじぐじぐと胸が痛むのでしょうか。痛んだままに、わたくしたちは歩いてゆく。歩いてゆくだけ、変わってゆくだけ、進んで行くだけ、長い、長い瀧をくだってゆくだけ、体のなかに入ったお星さまは、出て行く時にはお水に混じって出て行くのだそうです。出て行った先こそわたくしの涙。あらがほなそ、あらがほなそ、なそ、ふあさがれのいと、しらいとだきの、天くだるかえりじのしららしい山分けみちに光る白糸の木漏れ星、星の光ること数億年、わたくしの前に、光る道がある。

午後七時半、帰宅。

星が落ちている

迷い星

家のなか

グラスのなか

お風呂のなか

立ち上がると、胸から水の揺れる音が聞こえてきた

らぶ

瀧の音

らぶ

らぶ

光 も もしかして 星 に 帰りたい？

午後九時、再び富士北東白糸の瀧、下方百五十メートル、休憩所。明かりを消す。月齢一五・四。月明かりが青い。瀧水は白い。山肌は黒い。倒木は青黒い。看板は青白い。目を澄ます。音に聞く。さざめく。生きている水の匂いがする。生きている山の揺れがする。その森は春。春はまだ肌寒い。息が